令和 6 年度実施状況調査報告書（スポーツ振興基金助成）

■調査概要

助成団体	一般社団法人日本デフバレーボール協会
活動細目名	競技会開催（競技）
活動名	デフバレーボール世界選手権大会 2024
助成金額	6,400,000 円

■調査内容

令和 6 年度スポーツ振興基金競技会開催助成を受け、「デフバレーボール世界選手権 2024 沖縄豊見城大会」を開催した一般社団法人日本デフバレーボール協会の調査を実施しました。

世界選手権は 4 年に一度の開催であり、今大会は、2024 年 6 月 21 日（金）から 6 月 30 日（日）の 10 日間にわたり男子 7 か国、女子 5 か国のチームが参加し開催されました。デフバレーボールの国際大会を日本で開催することは初めてです。なかでも、沖縄県はデフバレーボール日本代表発祥の地とも呼ばれるほど盛んな土地であったため、開催地として選ばれました。

競技は 6 人制で行われ、コートや用具、競技形式などは一般のバレーボールのルールと同様です。スタートの音や審判の声による合図は視覚的に工夫されますが、今大会は 1 コートのみで行われたこともあり、競技場に大きな差異は見られませんでした。運用面では、選手を乗せたバスが試合開始時間までに会場に到着し、また試合が終わった選手をバスに乗せて宿舎に戻る入れ替え制となっており、円滑な運営の一助かつ、選手たちも迷わず試合に臨むことができる工夫がなされていました。その他には、手話通訳者の手配について、各国のチームに手話通訳及び国際手話通訳 2 名を帯同する体制としたため、特に人材の確保に苦労されたようです。

調査当日は、男子の準決勝である、日本対イタリアを視察しました。試合は、選手たちによる手話での国歌斉唱から始まりました。イタリアは世界ランキング 3 位の強豪国です。会場には、地域住民や子どもたち、放課後の学生たちも応援にかけつけており、選手それぞれの名前を呼び応援する姿、子どもたちが日本国旗を振って応援する姿がありました。その声援をうけ、選手たちも会場や選手同士を盛り上げながら試合に挑みましたが、惜しくもイタリアの勝利となりました。試合はライブ配信も行っており、配信画面には日本を応援する温かいコメントが寄せられていました。

本大会は、日本デフバレーボール協会として国際大会開催の経験がない中で模索しながらの開催でしたが、オリンピックの日本代表選手を起用した PR を SNS で発信するなど、一部日本バレーボール協会の協力を得ることもできた大会となりました。本大会の開催を通じて、日本ろうあ連盟を含めた協会同士のつながりが生まれ、デフバレーボールを始めとするデフ競技及び今後のバレーボール競技環境に好循環が生まれることを願っています。

（令和 6 年 6 月 27 日往査）

（写真）デフバレーボール世界選手権 2024 の様子



